

平成 24 年 7 月 26 日

アオコ情報 (No. 7)

今後一週間は、風が弱めで推移すれば、土浦入りや高浜入り、鹿行大橋以南を中心にしてアオコが著しく集積する場所が増加すると考えられます。

《調査内容》

場所：西浦，北浦

日時：平成 24 年 7 月 24 日 午前 7 時 25 分～午後 12 時 05 分

内容：気象等，アオコの発生状況，フィコシアニン濃度

《結果》

①アオコの発生状況（アオコレベル）

図 1 にアオコの発生状況を示します。西浦では土浦港周辺でアオコレベルが 3～5 と高くなっていましたが、木原沖～外浪逆浦沖は 1～2 と低めでした（高浜入りは未調査。霞ヶ浦河川事務所の調査（7 月 25 日）では沿岸は 2～5）。北浦では釜谷から鹿行大橋までは 2～3 でしたが、梶山～安塚までは 1～0 とほとんどアオコは見られませんでした。

※) 霞ヶ浦河川事務所の「見た目アオコ指標」を参考にした。

<http://www.ktr.mlit.go.jp/kasumi/kasumi00190.html>

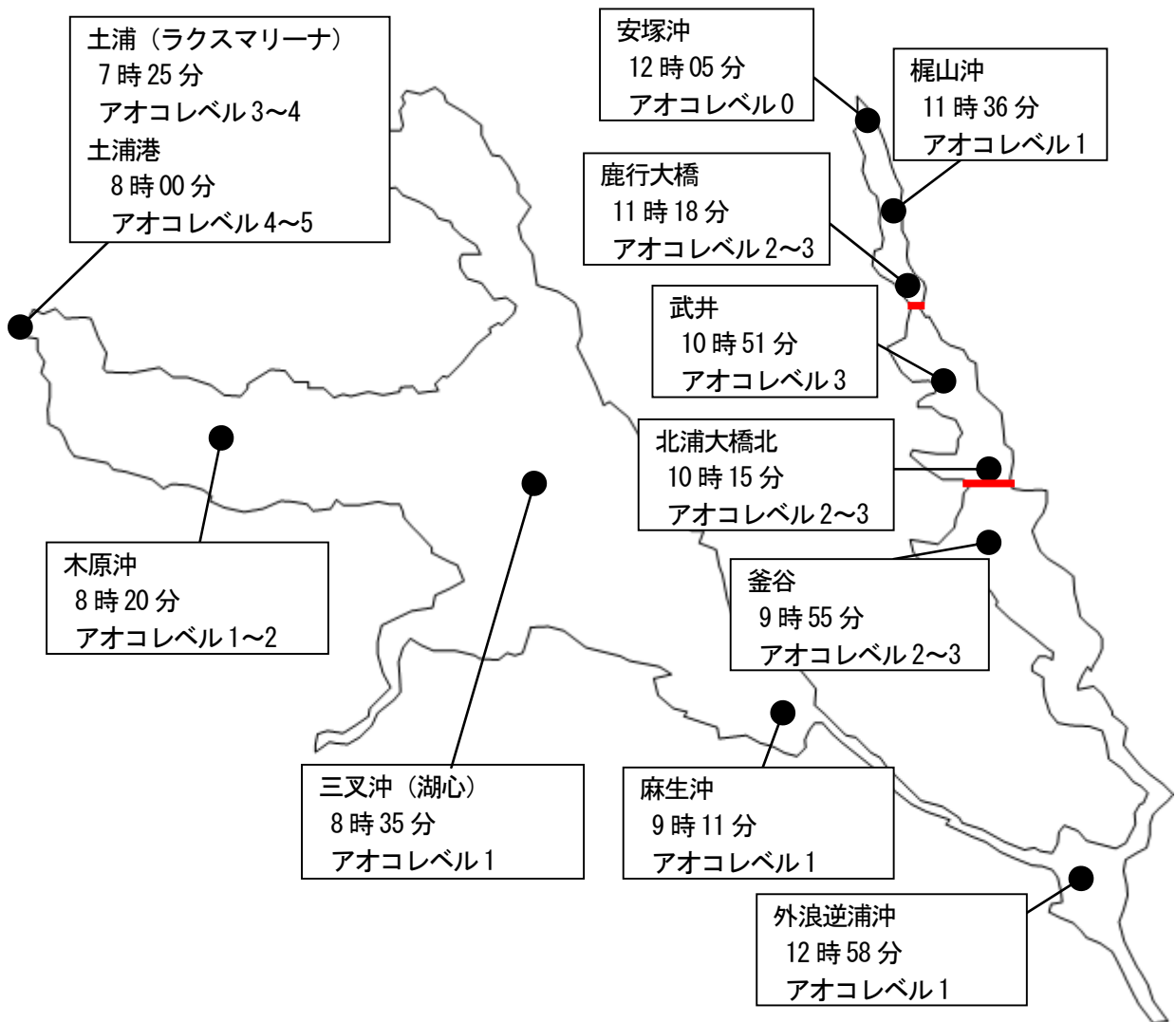


図1 アオコの発生状況

②表面水温及び透明度

表面水温は 25°C~26°Cで、アオコの主要構成種であるミクロキスティス属の増殖する水温（最適水温は 30°C程度）になっています。

地点名	天気	表面水温 (°C)	透明度 (cm)
土浦 (ラクスマリーナ棧橋)	曇り	26.5	50 (60)
湖心	濃霧	25.6	80 (90)

武井沖	薄曇り	26.6	105 (-)
安塚沖	晴れ	25.5	85 (-)

注) 透明度の括弧は今年の7月19日の値

③フィコシアニン濃度の訂正について

アオコ情報No.6までに公表したフィコシアニン濃度に誤りがありましたので、本号から正しい値に訂正して掲載いたします。なお、これまで公表したフィコシアニン濃度の変動傾向や予測の内容には影響ありません。

④フィコシアニン濃度

アオコの原因となるラン藻にはフィコシアニンという色素が含まれています。図2のとおりアオコの量とフィコシアニン濃度とは一定の相関関係がみられるため、アオコの発生量の目安になると考えられます。

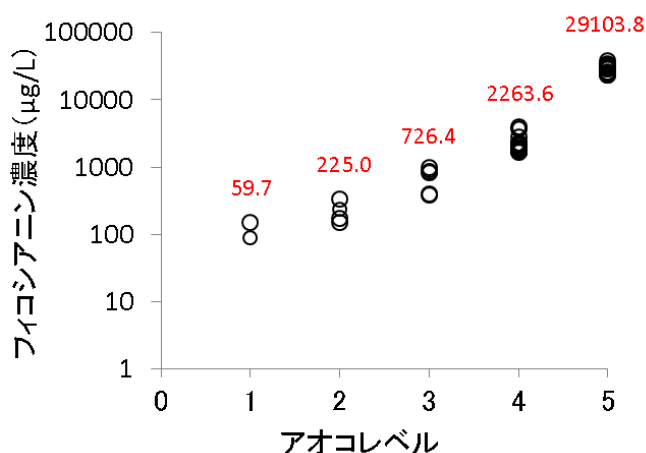


図2 アオコレベルとフィコシアニン濃度の関係 (7月4日現在)

(赤数字は各アオコレベルでの平均値)

6月中旬以降のフィコシアニン濃度の推移を図3に示します。土浦（ラクスマリーナ）では7月11日まで急増しましたが、7月19日には急減しました（風の影響によりアオコが拡散したためと考えられる）。今回調査では再び増加傾向に転じました。湖心、安塚沖、武井沖では低位横ばいでした。

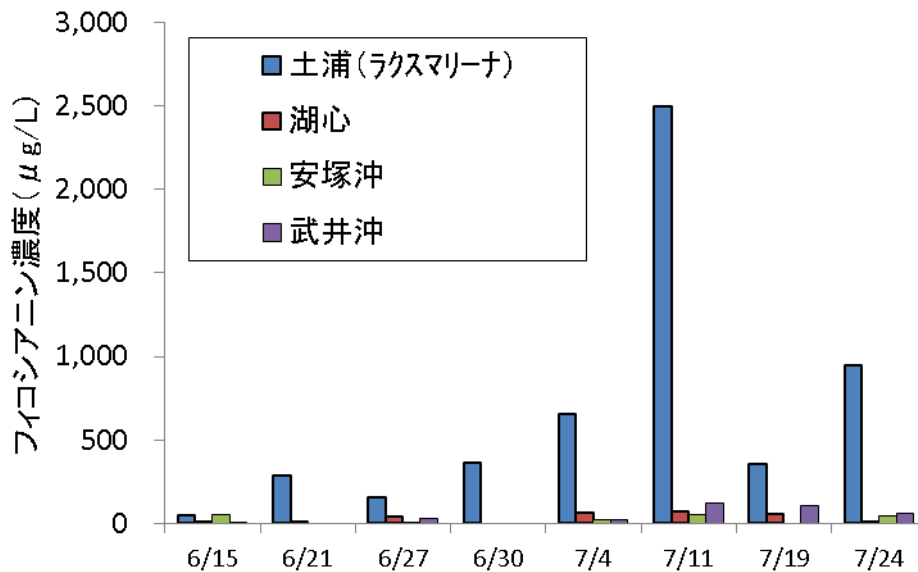


図3 フィコシアニン濃度の推移

⑤アオコ発生の今後の見通し

アオコの発生と気象条件（水温（気温）、風、日射量など）には密接な関係があることが知られています。気象庁（7月26日17時発表）によれば7月27日（金）～29日（日）は一時雨や雷雨があるものの、「曇り時々晴れ」で気温は30℃を超える夏日になると予測しています。続く30日（月）～8月2日（木）までは「晴れ時々曇り」で、最高気温は30℃を超えて夏日になると予測しています。また、全期間の気温を平年と比べると「平年並み～高め」で推移すると予測されることから、水温も「高

め」の傾向で推移すると考えられます。このことから、降雨直後にはアオコの形成が抑制されますが、風が弱めで推移すればラン藻の増殖に最適な気象条件であり、ラン藻が著しく増殖すると考えられます。

今後一週間は、風が弱めで推移すれば、土浦入りや高浜入り、鹿行大橋以南を中心にしてアオコが著しく集積する場所が増加すると考えられます。



茨城県霞ヶ浦環境科学センター
Ibaraki Kasumigaura Environmental Science Center

担当：湖沼環境研究室
住所：〒300-0023 茨城県土浦市沖宿町 1853 番地
電話 029(828)0963 (dial in)
FAX 029(828)0968

